資料１

「第 10 次愛知県職業能力開発計画」の進捗状況（主な取組）

【３つの施策の柱に共通する取組】

＜産学行政の連携による産業人材育成体制の強化＞

○　産業人材育成施策に係る関係者の連携を一層促進するため、愛知県産業労働部内に「愛知県産業人材育成支援センター」を設置し、総合的な支援を実施

○　企業ＯＢによる専門人材「産業人材育成連携コーディネーター」２名を配置して、企業訪問等により中小企業等の人材育成に係る課題を把握し、個々のニーズに合った県、公的機関等の支援策の活用を促進

○　研修等の産業人材育成情報を一元化・見える化したポータルサイト「ひと育ナビ・あいち」を開設

実績（28 年度）

・ポータルサイト「ひと育ナビ・あいち」を開設（平成 28 年 3 月）
・産業人材育成支援センターを設置（4 月）新規
・コーディネーターによる訪問件数：453 件（平成 29 年 1 月末現在）
・コーディネーターによる支援（相談）件数：127 件（同上）

・コーディネーターの訪問を受けて、県が中小企業のために様々な施策を実施していることを初めて知った。
・県の事業ばかりでなく、国等が実施する訓練等についても説明を受けて、参考になった。
・工場内での安全衛生に関するセミナーを企業内でやっていただける様に講師派遣及び助成金の受け方についてアドバイスを受けて助かった。

○「愛知県産業人材育成連携会議」において、産学行政における関係者間の連携を行うとともに、県庁内の部局横断組織である「産業人材育成・確保促進プロジェクトチーム」での施策の検討を進め、「あいち人財力強化プロジェクト」として産業人材育成の取組を推進

実績（28 年度）

・愛知県産業人材育成連携会議の開催（7 月、3 月(予定)）
・産業人材育成・確保促進プロジェクトチームの開催（8 月、2 月）

＜県立高等技術専門校の見直し・機能充実＞

○　高等技術専門校の機能の充実を図るため、施設のあり方に関する検討を実施

実績（28 年度）

・「産業人材育成ニーズを踏まえ、訓練コースの見直しなど、中小企業支援の観点から機能強化を実施する」こととし、「老朽化が進んだ施設・訓練機器について必要な整備を行う」方針

○　県立高等技術専門校において、産業界のニーズを踏まえたモノづくり人材を育成

実績（28 年度）　（平成 28 年 12 月末現在）

・普通課程訓練の実施：６コース、130 人　在職者訓練の実施：54 コース、524 人

○　県立高等技術専門校において、中小企業の要望に応じた訓練（オーダーメイド訓練）を実施するとともに、企業実習を伴う職業訓練施設や専修学校等を活用した公共職業訓練などを実施し、中小企業の人材育成を支援

実績（28 年度）

・オーダーメイド型訓練の実施：13 コース 95 人（平成 28 年 12 月末現在）
・セーフティネット訓練の実施：225 コース 3,309 人（同上）
（うち 企業実習型訓練の実施：16 コース 183 人（同上））

・東三河地域の企業であるが、これまでは名古屋地区での訓練を受けていた。東三河でオーダーメイド訓練をやってもらえてありがたい。
・オーダーメイド訓練に参加したが、振り返りになるいい機会であった。

【計画のアウトプット指標】

項目	目標数値	28 年度の状況
産業人材育成連携コーディネーターの企業向け技能習得支援コーディネート件数	40 件／年度	127 件（29 年 1 月末現在）
産業人材育成ポータルサイトトップページビュー件数	60,000 件／年度	22,768 件（29 年 1 月末現在）
愛知県産業人材育成連携会議の開催回数	2 回／年度	2 回
産業人材育成・確保促進プロジェクトチーム開催回数	2 回／年度	2 回
普通課程の普通職業訓練修了者の就職率	95%	参考：平成 27 年度　100%
在職者訓練生数　600 人／年度（2020 年度までに）	600 人／年度	524 人（28 年 12 月末現在）
短期課程の普通職業訓練修了者（雇用セーフティネット）の就職率	70%	参考：平成 27 年度　73.2%

【３つの施策の柱に共通する取組】（前頁から続く）

＜技能五輪全国大会及び全国アビリンピックの開催準備・招致＞

○　2019 年度技能五輪全国大会に向けた準備を進めるとともに、2020 年度技能五輪全国大会・全国アビリンピックの本県開催を招致

○　2020 年代初頭の技能五輪国際大会の招致に向け、国へ要請するとともに、必要な研究を実施

実績（28 年度）

・2019 年度技能五輪全国大会の大会基本計画の策定（平成 29 年 3 月(予定)）
・2020 年度技能五輪全国大会・全国アビリンピックの本県開催内定（10 月）
・2019 年度と 2020 年度両大会共通の大会ロゴマーク及び大会スローガンを公募により決定
・県内４か所でモノづくり体験を交えたＰＲイベントを開催
・2023 年技能五輪国際大会の本県招致に向け、県としての開催基本構想を策定（平成 29 年 3 月(予定)）

［ 大会ロゴマーク ］

AICHI
2019-2020

2019 年度技能五輪全国大会
2020 年度技能五輪全国大会・全国アビリンピック

［ 大会スローガン ］

「その技に 誇りと感動 あいちから」

≪参考≫

【計画のアウトカム指標】

項目	数値（愛知県）
①労働力人口の全国シェア	6.2% (2020 年までに)
②労働力率	62.0%（2020 年） ※高齢化に伴う低下傾向の中、2012 年水準（61.7%）を維持
③若者(25 歳～44 歳)の完全失業者数	50,000 人以下 (2020 年までに)
④女性(25 歳～44 歳)の労働力率	73.1% (2020 年までに)
⑤高齢者(65 歳以上)の労働力率	24.8% (2020 年までに)
⑥民間企業における障害者の法定雇用率達成	2.0% (2020 年までに)
⑦技能検定合格者数	8,500 人／年度

【施策の柱①：高度なモノづくりに向けた人材の育成支援】

＜モノづくりの基盤強化に向けた人材の育成支援＞

○　航空機の増産・量産化に対応した研修等の人材育成支援を実施

実績（28 年度）

・航空機製造技能者育成講座　受講者数：1,340 人日（平成 28 年 12 月末現在）

・生産技術者養成研修　受講者数：30 人日

・現場技能職基礎知識講座　受講者数：111 人日　等

○　愛知総合工科高等学校において、次世代自動車や航空機の生産の現場をけん引する人材を育成　新規

実績（28 年度）

・愛知総合工科高等学校（専攻科）開校（4 月）

・専攻科では、関連企業、大学等から外部講師を招聘し、高度で実践的な教育を実施

○　モノづくり現場への女性の参画や職域拡大を促進するため、モノづくり現場で活躍する女性の事例を調査し、情報発信するとともに、中高生、保護者等向けのセミナーや職場見学バスツアーを実施

実績（28 年度）（見込）

・事例調査：30 件、セミナー：１回、職場見学バスツアー：５回

＜ビジネス環境の変化に対応する人材育成の強化＞

○　あいち産業科学技術総合センターと連携して、県内の中小企業におけるＩｏＴの活用促進のため、主に製造業を対象に、現場のＩｏＴ化の動向や地元中小企業の事例についてのセミナーを開催

実績（28 年度）

・参加者数：144 人

○　グローバル化に対応する人材の育成を図るため、県内企業が多数進出している東南アジアにおいて、職業高校生の海外インターンシップを実施

実績（28 年度）

・職業高校生８人がタイでの海外研修でインターンシップを実施

○　外国人留学生の県内企業就職促進のため、留学生を対象としたインターンシップ、企業見学ツアー等を実施

実績（28 年度）

・留学生インターンシップ事業　参加留学生数 54 人（うちマッチング成立 46 人）
　　参加企業数 42 社（うちマッチング成立 25 社）

・外国人留学生向け企業見学ツアー　参加留学生数 30 人（予定）

＜若手技能者の育成支援＞

○　技能を尊重する気運の醸成を図るため、中小企業の若手技能者を対象とする技能競技大会（町工場技能者コンクール）を実施

実績（28 年度）

実施職種：旋盤、機械製図、電子機器組立て　参加者数：36 人

実施場所：愛知総合工科高等学校

・自分とは全く違う発想、方法で加工する他の選手と交流ができ、勉強になった。

・事前講習会では、専門的なアドバイスだけでなく、「基本に忠実であること」も徹底して教えてもらい、参考になった。

○　早期段階からモノづくりの魅力を浸透させるため、技能五輪のメダリスト等による出前講座を小中学校等で実施するとともに、小中学生を対象にした技能大会を実施

実績（28 年度）

・出前講座の参加校数：51 校／年度（見込）

・少年少女技能大会（アイチータ杯）の実施：４競技　新規

・色々な人の話をこれまで聞いてきたが、ものを作っている人の話はとてもためになった。これからも他の職業の人の話を聞いてみたい。

・職人さんの技術のすごさに気付いた。

○　若者の技術・技能の向上を図るため、企業ＯＢ等の熟練技能者を中小企業等に派遣

実績（28 年度）

派遣件数：100 人日／年度（８中小企業、14 校へ派遣見込み）

・技術・技能だけでなく、職場環境についてもアドバイスをいただき、これを契機に５Ｓ（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）の徹底など、改善を図ることができた。

【計画のアウトプット指標】

項目	目標数値	28 年度の状況
航空宇宙産業の人材育成研修受講者数	12,000 人日 (2020 年度までに)	1,481 人日 (28 年 12 月末現在)
モノづくり現場で働く女性のロールモデルを発掘・紹介	100 人 (2020 年度までに)	30 人（見込）
IT スキルを有する技術者向け講習会の参加者数	100 人／年度	144 人
町工場技能者コンクール参加者数	30 人/職種/年度	36 人／3 職種
出前講座の参加校数	50 校／年度	51 校（見込）
熟練技能者の派遣件数	100 人日／年度	100 人日（見込）

【施策の柱②：中小・小規模企業の人材育成・能力開発支援】

＜企業・業界及び在職者・求職者のニーズに対するきめ細かな対応の強化＞

○　人材育成の重要性を啓発し、経営者の意識改革を図るため、モノづくり中小企業経営者を対象とした人材育成塾（森岡塾）を開催　新規

実績（28 年度）

・開催回数：３回　参加人数：延 74 人

・経営者の手法や考え方を聞いて、自分の不足部分を知ることができ、気付きのきっかけ、実行手段を学ぶことができた。

・キャリアビジョンを作る必要性が明確になった。

○　モノづくり現場で学生に中小企業の魅力を体感してもらうため、大学１・２年生、専修学校生を対象とした、モノづくり中小企業のインターンシップを実施　新規

実績（28 年度）

・受入企業数 27 社、参加学生数 51 人（見込）

・小さな部品でも、設計、製造など多くの人が関わって製品になっていることを知った。

・自分が書いた図面が形となり機能する時、モノづくりの楽しさを感じた。

○　愛知県産業労働センター等において、中小企業の様々な支援策に関する情報提供などをワンストップで実施

実績（28 年度）

・相談対応件数　愛知県産業労働センター　6,014 件（平成 28 年 12 月末現在）
　　愛知県産業人材育成支援センター　127 件（平成 29 年 1 月末現在）

＜労働生産性の向上に向けた支援＞

○　愛知県職業能力開発協会が、主に生産現場の監督者を対象としたＴＷＩ訓練（仕事の教え方、改善の仕方、人の扱い方を内容とする企業内訓練）を実施

実績（28 年度）

訓練受講者数：1,649 人／年度（見込）

＜人材育成・能力開発に向けた関係機関（産業界、労働界、教育界等）の連携強化＞

○　愛知県産業人材育成支援センターに配置された「産業人材育成連携コーディネーター」が、中小企業や商工会議所等の関係団体を訪問し、ネットワークを強化［再掲］

○　産学行政、教育関係者、職業能力開発機関が連携して、地域を挙げてあいちの「人財力」を強化するために設置した「愛知県産業人材育成連携会議」において、中小企業の人材育成の促進に向けた取組方策を検討［再掲］

＜連携会議委員からの意見（連携して行う中小企業の人材育成の促進に向けた取組）＞

・中小企業だからこそできることがあるが、その魅力を企業は発信できていない。人材育成や特色ある経営を行っている中小企業の魅力や実態を発信する必要がある。

・全部の中小企業が人手不足という訳ではなく、経営戦略や国際競争力をつけるための方向性が見える企業は充足している。

・女性、高齢者の採用や中途採用を行わなければ人材の確保が難しいので、こういった方々に向けた人材育成を考えなくてはいけない。

【計画のアウトプット指標】

項目	目標数値	28 年度の状況
人材育成塾への参加経営者数	60 人	74 人
モノづくり企業インターンシップの受入れ企業数、学生数	25 社 25 名以上	27 社、51 人（見込）
ワンストップ窓口の相談対応件数	25,000 件 (2020 年度までに)	6,116 件 (28 年 12 月末現在) ※愛知県産業労働センターと産業人材育成支援センターの合計値
愛知県職業能力開発協会が行う訓練の受講者数	1,600 人／年度	1,649 人（見込）

【施策の柱③：キャリア教育・職業教育の推進】

＜発達段階に応じたキャリア教育の推進＞

○　県立高等学校において、インターンシップ等の体験活動を拡充

実績（28 年度）

・県立高等学校（全日制）全校でインターンシップを実施
　参加者数：14,700 人（見込）

○　社会人講師やインターンシップの橋渡しを円滑に行うため、コーディネーターや専門人材を活用

実績（28 年度）

・キャリア教育コーディネーター活用事業を立ち上げ、４名のコーディネーターが、モデル校 16 校のインターンシップの受入先やキャリア教育に関する社会人講師を開拓　　インターンシップ受入先の新規開拓：247 社、672 人分を確保（見込）

○　中小企業の魅力を発信するため、中小企業を対象とする大学生の職場体験・職場見学を実施

実績（28 年度）

・あいちＪＯＢトラベル事業の実施
　見学コース　受入企業　15 社、参加学生　70 人
　体験コース　受入企業　11 社、参加学生　35 人（平成 28 年 12 月末現在）

＜産業界・地域と連携したキャリア教育の推進＞

○　産学行政、教育関係者、職業能力開発機関が連携して、地域を挙げてあいちの「人財力」を強化するために設置した「愛知県産業人材育成連携会議」において、職場体験・インターンシップ等キャリア教育の充実方策を検討［再掲］

＜連携会議委員からの意見（キャリア教育の推進について）＞
・小中高、大学が連携してそれぞれのキャリア教育の成果を次の段階へ繋ぐ仕組みが必要
・小中学生がモノづくりに興味を持つような場面や機会をつくらなければいけない。
・学生に教育する前に、先生に中小企業を知ってもらわなくてはならない。
・インターンシップの効果は大きいが、受入先の確保が難しい。

＜モノづくり離れ対策の推進＞

○　設置して間もない発明クラブなどを対象に、指導ノウハウなどを伝える講習交流会を開催するとともに、出張発明クラブ（活動体験）の開催など、モノづくり・科学技術と子供や若者を結ぶ取組を強化

実績（28 年度）

・出張発明クラブの開催　8 回、188 名（見込）等

＜専門高校における職業教育の充実＞

○　本県の工業教育の中核となる県立愛知総合工科高等学校を開校し、高度で実践的なカリキュラムを実施

○　県立工業高校におけるモノづくりスキルアップ講座の実施、キャリアリンク講座の実施などを通じ、モノづくり人材を育成

実績（28 年度）

・地域ものづくりスキルアップ講座の実施
・キャリアリンク講座の実施　84 校 89 学科（見込）
・高校生の技能検定合格者数　800 人（見込）

【計画のアプトプット指標】

項目	目標数値	28 年度の状況
県立高等学校におけるインターンシップに参加した生徒数	18,000 人／年度	14,700 人（見込）
中小企業を対象とする大学生の職場体験・見学の参加者数	180 人／年度	105 人（28 年 12 月末現在）
出張発明クラブ参加者数	120 人／年度	188 人（見込）
高校生の技能検定合格者数	800 人／年度	800 人（見込）